

# 遺伝情報を用いて絶滅危惧種を保全する

教員名：中濱 直之

連絡先メールアドレス：nakahama@hitohaku.jp

## ◎ どのような研究をしていて、どんなことに役立つのか？

絶滅の危機に瀕している生物、いわゆる絶滅危惧種の保全をする際には、遺伝的多様性や地域の遺伝的固有性などといった遺伝情報にも配慮して実施する必要があります。私は、特に近年環境悪化の著しい草地や湿地などの生態系に生育する絶滅危惧種の保全遺伝学的研究を進めています。



さらに、博物館に収蔵されている生物標本は、その生物が生きていたころの情報を持っている、いわばタイムカプセルです。標本の遺伝解析から過去の情報を復元することにより、絶滅危惧種がいつ？なぜ？どの程度？減少したかを知ることも可能です。保全遺伝学的研究にこうした標本を活用することで、標本が持つ価値の再評価、また効果的な保全手法の開発をしています。



## ◎ 主な研究業績

(絶滅危惧種の個体数の歴史) Nakahama N, Uchida K, Ushimaru A and Isagi Y. (2018) Historical changes in grassland area determined the demography of semi-natural grassland butterflies in Japan. *Heredity*, 121: 155-168.

(草原性絶滅危惧植物の遺伝的多様性と草刈りの関わり) Nakahama N, Uchida K, Ushimaru A and Isagi Y. (2016) Timing of mowing practice greatly influences reproductive success and genetic diversity in endangered semi-natural grassland plant populations. *Agriculture, Ecosystems and Environment*, 221: 20-27.

## ◎ 学生に向けて一言

生物多様性の理解という基礎科学から実践的な保全手法といった応用科学まで、ご自身の興味関心に沿ってテーマを設定することができます。生物が大好きな方、興味のある方の進学を心からお待ちしています。まずはお気軽にご連絡ください。